

## 株式会社DXパートナーズ主催「DXの科学®」アカデミー 2022年5月度ゲストセミナー 2022年5月20日 16:00-18:00

ゲスト講師 浦川伸一氏

損害保険ジャパン株式会社 取締役専務執行役員CIO

MC 村上和彰

株式会社DXパートナーズ シニアパートナー

グラレコ 徳永美紗

株式会社DXパートナーズ アドバイザリーパートナー

## アジェンダ



- 1. 16:00-16:10 オープニング
- 2. 16:10-17:10 浦川伸一氏ご講演
- 3. 17:10-17:50 Q&A ダイアログ/対話
- 4. 17:50-18:00 クロージング





## 1. オープニング

DXの科学的実践方法論「DXの科学®」とは?

DX人材育成プログラム「DXの科学®」アカデミーとは?

私たちデジタル時代の事業者に突きつけらている命題

その命題に対する当社 株式会社DXパートナーズの答え

その答えを実現するために当社が開発した科学的方法論

当社が考えるDX人材像

DX人材育成のために当社が開発したカリキュラム

そのカリキュラムに基づくアクティブラーニングプログラム



## 1.1 DXの科学的実践方法論「DXの科学®」とは?

私たちデジタル時代の事業者に突きつけらている命題



デジタル時代にビジネスを成長させるために (自社ビジネスがデジタル破壊されないために) いま我が社がやるべきことは?



その命題に対する当社株式会社DXパートナーズの答え



デジタル技術とデータを前提に 高速・高頻度・高成功率で 顧客価値を創造できるヒトと組織をつくる



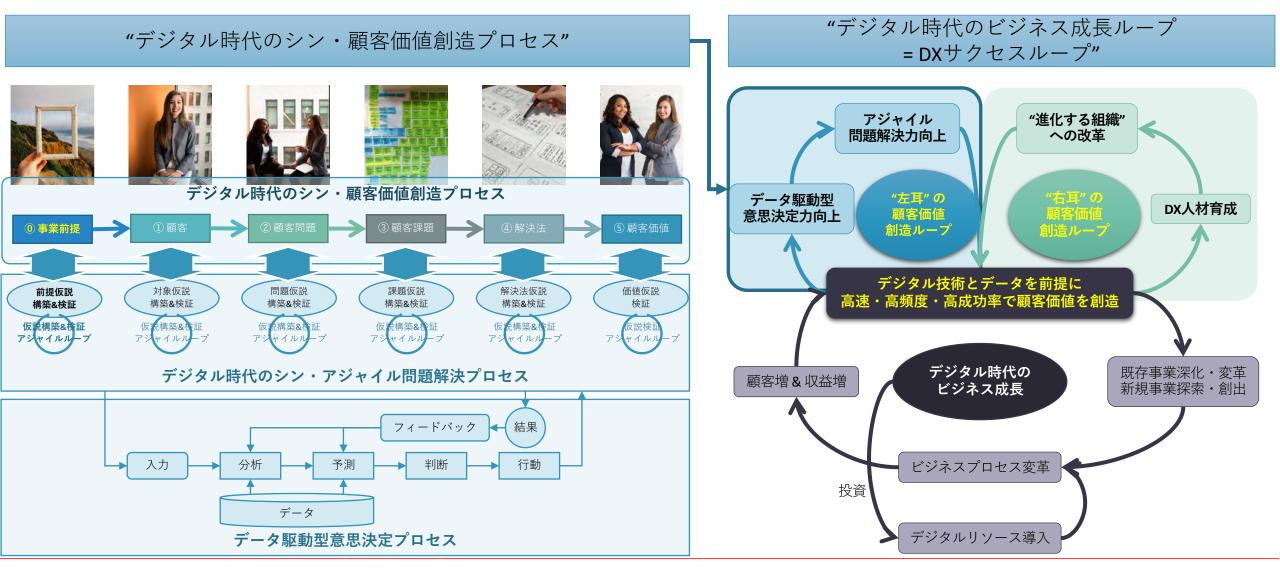
その答えを実現するために当社が開発した科学的方法論



"デジタル時代のシン・顧客価値創造プロセス" および

"デジタル時代のビジネス成長ループ = DXサクセスループ"







当社が考えるDX人材像



"デジタル時代のシン・顧客価値創造プロセス"を 実行して顧客価値を創造できるヒト

DX人材育成のために当社が開発したカリキュラム



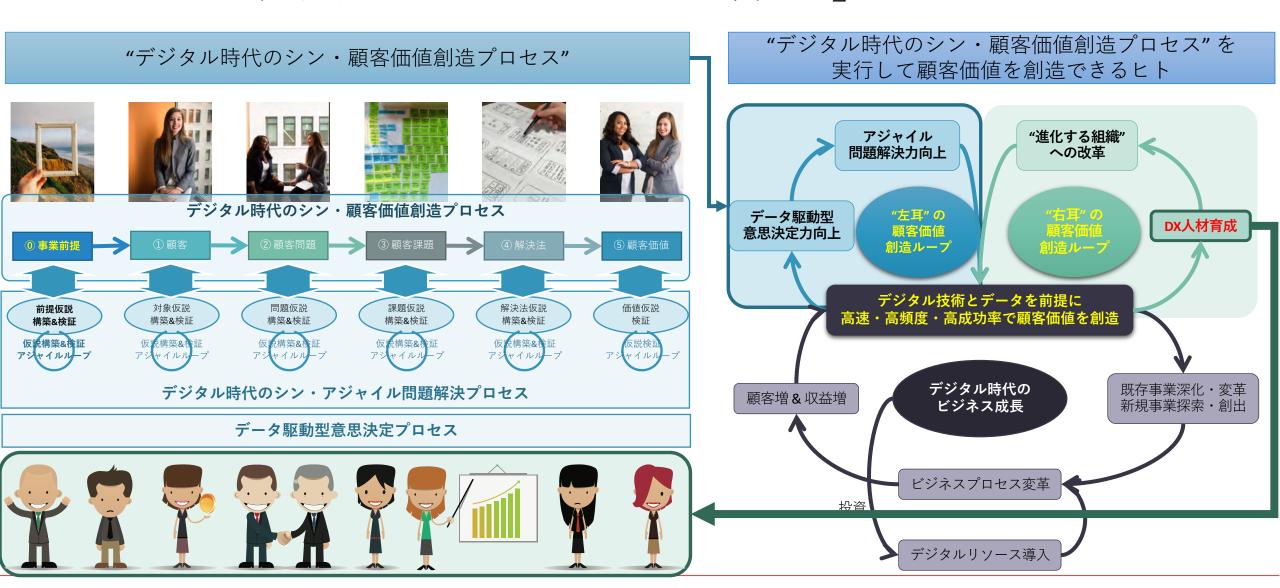
"デジタル時代のシン・顧客価値創造プロセス"を体験、 仮説構築&検証に必要な"7つのリテラシー"と 「DXの科学®」ツールセットを修得



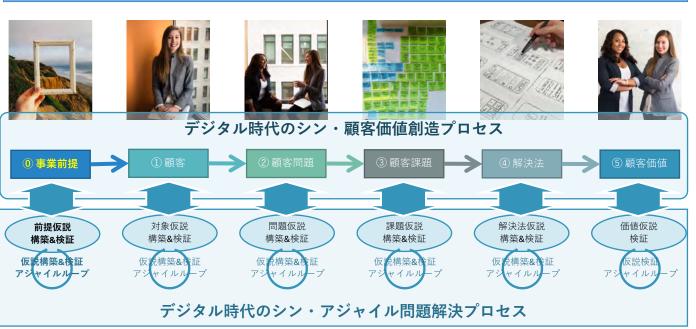
そのカリキュラムに基づく アクティブラーニングプログラム



受講者数を少人数 (最大20名) に絞り、 "頭と口と手を使う"対話・討議中心、かつ、 デザインスプリント#形式の4ヶ月32時間 完全オンライン双方向型研修



#### 101個の厳選したツールからなる「DXの科学®|ツールセット





#### 仮説構築&検証に必要な"7つのリテラシー"

システム思考

システム

思考

データに基づいて意思決定を行なったり、データから知見を得るとともに、データを利活用するアイデアを

顧客を理解し、顧客価値を創造し、 「マーケット=市場」における顧客 の行動を変えるアイデア、施策を考 案する力



マーケティンク

課題を達成する解決法を考案する際に デジタル技術を積極的に活用したり、 既存の解決法にデジタル技術を掛け合 わせて新しい解決法を考案する力





のす失なかる敗主デゼッ・後し

人文科学的思考

データ思考やデザイン思考、論理 的思考、システム思考では明らか にすることが困難な「人間の行 動」の理由に関する深い洞察、仮 説を観察から導き出す力

論理的思考では対処が難しい極めて複雑な問題を対象に、問題の全体像を俯瞰すると同時に、問題の本質を成す (往々にして非線形の) 因果関係を明らかにすることで問題を解決する力 リテラシーデザイン

論理的思考

デザイン思考

THE STATE OF THE S

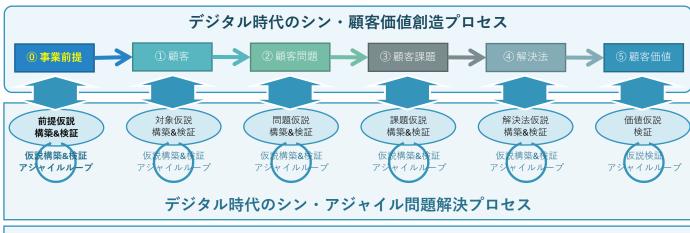
仮説を構築する際に、思考の枠組み を取り去って思考を「発散」させて 多数の仮説を産み出し、その後「収 束」させることで出来るだけ質の高 い仮説構築を可能とする力

版説をは **筋の良い 仮説を生む** 問題解決の 

仮説を構築する際に、デザイン思考と は逆に思考の枠組みを定めることで、 漏れなくかつ重複なく問題や課題を因 数分解し、分解後の各因子に対する解 決法を求めて最終的にそれら解決法を 合成することで最終解を求める力



受講者数を少人数 (最大20名) に絞り、"頭と口と手を使う" 対話・討議中心、かつ、 デザインスプリント形式の4ヶ月32時間 双方向オンライン研修



データ駆動型意思決定プロセス

101個の厳選したツールから成る「DXの科学®」ツールセット

仮説構築&検証に必要な"7つのリテラシー"

「DXの科学®」セミナー

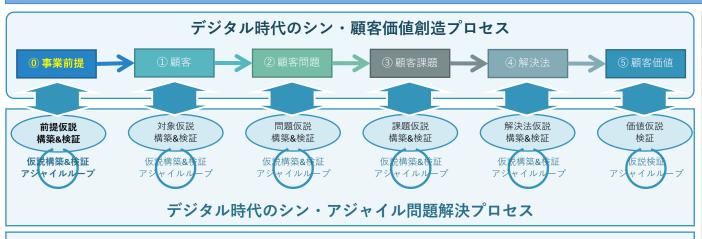
デジタル "アウト オブザボックス" デジタル "アウト オブザボックス"

**DXワークアウト** [研修型デジタルサービスデザイン]

到達目標	所要時間	スタイル
なぜ "デジタル技術とデータを前提に高速・高頻度・高 成功率で顧客価値創造" かを理解し、 "デジタル時代のシ ン・顧客価値創造プロセス" の実行法を修得する。	8時間	座学+対話
デジタル破壊者がどう "デジタル技術とデータを前提に顧客価値創造" を行なったかを調査、受講者自ら "箱から出て、常識を捨ててデジタルと向き合う" を実践する。	6時間	対話+討議
「新規のデジタルサービスをローンチせよ」がミッション。"デジタル時代のシン・顧客価値創造プロセス"を実際に実践する。	18時間	デザインスプリント



受講者数を少人数 (最大20名) に絞り、"頭と口と手を使う" 対話・討議中心、かつ、 デザインスプリント形式の4ヶ月32時間 双方向オンライン研修



データ駆動型意思決定プロセス

101個の厳選したツールからなる「DXの科学®」ツールセット

仮説構築&検証に必要な"7つのリテラシー"

「DXの科学®」セミナー

デジタル "アウト オブザボックス" デジタル "アウト オブザボックス"

**DXワークアウト** [研修型デジタルサービスデザイン]

デジタル "アウトオブザボックス" 箱から出て、常識を捨ててデジタルと向き合う!



#### デジタル "アウトオブザボックス" の1つの方法論概要

- 1. 分析: 御社が狙う業界における3つのC (Customer Competitor Company) 間の "非対称性" の現状はどうなっているか?
- 2. 分析: デジタル技術とデータによって、上記の"非対称性"はどう変化しているか? または、変化の可能性はあるか?
- 3. 仮説構築: 御社としてどう"非対称性"を変化させるか?
- 4. 仮説検証: その "非対称性" はどの程度持続可能か?

## 「DXの科学®」アカデミーが育成するDX人材のロールモデル



## 現在、以下の3つの学期の受講者を募集中!

	7-10月学期	8-11月学期	9-12月学期	
開講期間	2022年7月1日~2022年10月31日	2022年8月1日~2022年11月30日	2022年9月1日~2022年12月31日	
開講日時	隔週木曜日13:00-17:00 [4時間]	(不規則) 土曜日13:00-17:00 [4時間]	毎週火曜日15:00-17:00 [2時間]	
開講回数	8回 [×4時間/回]	8回 [×4時間/回]	16回 [×2時間/回]	
募集期限	2022年5月31日	2022年6月30日	2022年7月20日	
開講可否通知	2022年6月1日	2022年7月1日	2022年7月21日	
受講費入金期限	2022年6月30日	2022年7月31日	2022年8月31日	
受講者定員		最大20名		
最少開講人数		5名		
実施形態		オンライン		
使用オンラインツール	Zoom [必須] / Miro [必須] / Slack [推奨]			
受講費	300,000円/人 [税抜]			
募集要項ダウンロードURL	https://drive.google.com/file/d/1MU5Z XZG35jkNhGvDQWzH8Xhj44QsQO1W/v iew?usp=sharing	QWzH8Xhj44QsQO1W/v nttps://drive.google.com/file/d/1pmDQ_l8tpxnyx4KnNASvW9BO6xp8vk3U/view?		
上記QRコード				

## アジェンダ



- 1. 16:00-16:10 オープニング
- 2. 16:10-17:10 浦川伸一氏ご講演
- 3. 17:10-17:50 Q&A ダイアログ/対話
- 4. 17:50-18:00 クロージング



## ゲスト講師ご紹介



## 浦川伸一氏

損害保険ジャパン株式会社 取締役専務執行役員CIO SOMPOシステムズ株式会社 取締役会長 経団連 DX会議 DXタスクフォース座長

1984年 日本IBM入社、金融機関担当部門でSE・PM 等を歴任

2013年 損保ジャパン/日本興亜損保執行役員

2014年 SOMPOシステムズ代表取締役社長

2016年 SOMPOホールディングス常務執行役員 グ ループCIO

2020年 損保ジャパン取締役専務執行役員CIO

2021年 SOMPOシステムズ取締役会長、立教大学 大学院人工知能科学研究科 客員教授

### 「DXの科学」アカデミーゲストセミナー



## 自己紹介

#### 浦川 伸一

#### 略歴

1984年 日本IBM入社 金融機関担当部門でSE、PM等を歴任

2013年 損保ジャパン / 日本興亜損保 執行役員

2014年 SOMPOシステムズ 代表取締役社長

2016年 SOMPOホールディングス 常務執行役員 グループCIO

2020年 損保ジャパン 取締役専務執行役員CIO(現職)

2021年 SOMPOシステムズ 取締役会長(現職)

立教大学大学院 人工知能科学研究科 客員教授(現職)



内閣府: 人間中心のAI社会原則検討会議 構成員 内閣官房: Trusted Web検討会議 委員

経済産業省: コロナ禍を踏まえたデジタル・ガバナンス検討会 委員 NEDO ロボット・AI部: 技術委員

経団連: DX会議 タスクフォース座長、デジタルエコノミー推進委員会 企画部会長

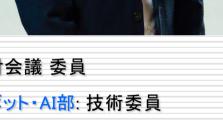
システムイノベーションセンター(SIC): 代表理事・センター長 プロジェクトマネジメント学会(SPM): 監事

JPドメイン名諮問委員会: 委員 ソフトウェア協会(SAJ): 理事 等

#### 信条

ビジョンを持ち、計画を立て、周囲を説得し、プロジェクトを牽引し、成し遂げること





## 本日の構成

Charpter1 日本発「協創DX」

Charpter2 ビジネスモデル変革

Charpter3 システム変革

Charpter4 人材変革

Charpter5 まとめ



## 本日のキーメッセージ

- ■経団連では、協創DXを提唱。しかしDXは遅々として進んでいない。
- ■DXはトランスフォーメーション(変革)であり、 多くの日本企業にとってハードルが相当高い。
- ■DXには、①ビジネスモデル ②システム ③人材& カルチャーの3大変革の同時平行推進が重要。
- ■「DXの科学」のマスターで、 ビジネスモデルと 人材 & カルチャー変革を加速させよう。



# 1. 日本発「協創DX」



## DXの定義

■ Digital Transformationはさまざまな定義が存在しているが、当講演では、以下の代表的な定義を引用する。

#### 経済産業省の定義

■ 企業がビジネス環境の激しい変化に対応し、データとデジタル技術を活用して、顧客や社会のニーズを基に、製品やサービス、ビジネスモデルを変革するとともに、業務そのものや、組織、プロセス、企業文化・風土を変革し、競争上の優位性を確立すること。

#### 経団連の定義

■ デジタル技術とデータの活用が進むことによって、社会・産業・生活のあり 方が**根本から革命的に変わる**こと。また、その革新に向けて産業・組織・個 人が**大転換を図る**こと。

### DXパートナーズでのDXの定義

「デジタル技術とデータを武器に、顧客価値起点でスピード感があり適応力の高いビジネスを行える組織であり続けること。」



## Pre-DXCDX

■ 経団連や経済産業省のDX定義に従えば、デジタル化やBPRはDXの準備 段階、すなわち"Pre-DX"。

注:DXの準備段階を「守りのDX」、DXの実 DXの実践 (本来のDX) 践段階を「攻めのDX」と表記することもある デジタル技術でこれまでの業務を根本から 競争力強化 変え新しい価値を創出する Pre-DX 社会•産業構造 の抜本的改革 (守りのDX??) 顧客接点の抜本 ビジネスモデル 的変革 の抜本的変革 既存の商品・ IT化、デジタル化、効率化etc. 変革の サービスの高度 化による提供価 業務をデジタル技術に置き換えること 目的 値向 F で効率化する DX 経営状況の可視 化による経営判 (攻めのDX??) 業務プロセスの 断の迅速化と データに基づく意 抜本的改革や再 業務効率化 業務処理の効率 思決定の支援 設計 化、省力化 高

達成難易度

■ DXを顧客体験のイノベーション、さらには社会・産業構造の大変革を ともなうイノベーションと捉えると、ハードルは相当高い。



## 生活者≠消費者

■ お客様を、企業目線である「消費者」ではなく、「生活者」と捉え、 考え抜くことは、DXを進める上で重要な視点と捉えられる。



自社の製品・サービスをどう やって知ってもらい、購入い ただくかではない。

#### →消費者目線

■ 生活者にどのような行動変化 や価値変化が生じていて、ど のようなニーズがあるのかを 探求し、**生活者とどのような 接点を見出すかがキー**に。

#### →生活者目線

■ 生活者との接点を、デジタル変革で見出し、価値提供している企業が DXで成果を出しているのではないだろうか?

## 生活者目線のDX

■ 数年に渡りDXを推進してきて実感するのは、以下の2つのポイントを経営陣で徹底的に議論をして共有することが必要という点。

# 目指すべき社会・企業の目標設定

どのような社会を目指し、企業として 生活者にどのような価値を届けるべき なのか、**ビジョンと目的を明確に**する。

## DXの波の高さの 設定

DXの波の高さ、すなわち**自社の業務 改善レベルから始めるのか、業界再編 レベルに挑むのか**、などを見極める。

■ 何のためのDXなのかを確認せずにPOCをいくら繰り返しても、成果は出にくい。



## 経団連 DX会議

## Digital Transformation 価値の協創で未来をひらく

■ 経団連は、DX会議・タスクフォースにおいて、DXをめぐる横断的な 議論を行い、2020年5月に提言 「Digital Transformation (DX) ~価値の協創で未来をひらく~」を公表。



DX会議(2020年1月27日) 来賓:日本CTO協会、西村経済再生担当大臣

■ DXを「デジタル技術とデータの活用が進むことによって、社会・産業・生活のあり方が根本から革命的に変わること。また、その革新に向けて産業・組織・個人が大転換を図ること。」と定義。



## 経団連 DX提言:日本発「価値創造型DX」

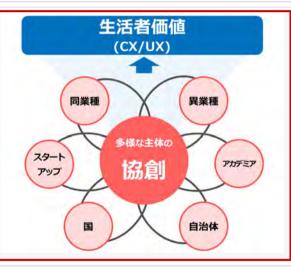
- 各国でDXが進む中、強みや特徴を活かしつつ日本ならではの方向性を 打ち出し、グローバルに発信することが重要。
- 日本発DXとして推し進めるべきは「多様な主体の協創による生活者価値実現」。



#### 日本発DX

#### 価値協創型=多様な主体の協創による生活者の価値の実

- **基**存の部門や業種の垣根をなくし、生活者価値を共有する同業種・異業種、スタートアップ、アカデミア、政府・自治体などさまざまな主体が有機的かつ自律的に協創を進めるモデル
- ・ 従来の企業連携・業務提携にとどまるものではなく、生活者価値の実現を目的とした、 より抜本的で有機的な連携を推進
- 生活者の意思に基づき、多様な主体間での信頼あるデータ連携を進める



各国発DX



#### 米国

- 巨大プラットフォーマー企業が多種多様で革新的なサービスを提供
- ・ 旧産業がDXにより業態変革





- ・ 国家主導でDX推進。巨大なテクノロジ 一企業が大規模にデータを収集
- ・ 社会信用システムで価値の共有が拡大





- ・ 各国で強みの分野中心に推進
- ・ EUとして、デジタル単一市場戦略 を進める一方、GDPRを施行するな ど個人の権益保護を最重要視



## 経団連 DX提言:「協創DX」5要素

- 思い切った改革には、多様な主体による「協創」を進める視点が重要。
- ■「協創」を軸に、各組織の状況に応じて「経営」「人材」「組織」「技術」をあわせた5分野での変革が必須と定義した。



● 生活者価値を実現する有機的・自律的な協創



● 多様な主体(業種・規模・新旧 等)とのデジタル技術を活用した多様な方法(サービス・製品、データ、人材 等)での協創

#### 協創を推進し収益を得る

2 経営

● 経営者が描くべきDXビジョン、経営者の条件



● DXによる経営の軸の転換と事業戦略(既存事業、派生事業、新規事業)と事業刷新の 方法

- 3 **人材** DX推進の人材
  - モデル

● 育成・人事制度

- 4
- 組織 •



- 組織文化
- 組織体制
  - (出島等)

5 技術 ● DX・LXに向けた



データとシステ

ムの整備

## 経団連 DX提言:協創の要件・方法

■ Society5.0時代の協創を実現するための要件とその方法を定義した。

Society 5.0時代の

「協創」の要件

- 1 独立した2以上の主体
- 2 パートナー同士の対等な関係
- 3 互いのリソース・リスクの活用
- 4 DXの活用
- 5 新たな生活者価値の創造

### 「協創」の方法

1 サービス・製品による協創

各企業が優位性・独創性のあるサービス・製品を持ち、それらをAPI連携などを駆使し、顧客からみて価値ある一連の統合的サービスとして提供

2 データによる協創

各企業所有のデータを相互流通させたり、情報銀行を介して複数企業のデータを活用

3 人材による協創

各企業毎に異なる人材の相互支援や交流などを通じて、顧客視点での価値提供や社会 課題の解決に資するサービスや事業を創出



## 経団連 DX提言: DX度を評価する指標例

- 協創を軸とするDX推進に必要な5つの要素を段階的に進める上での定性指標。
- DX推進のスタートラインであるLv2への底上げをまず図り、その上への 到達を目指すことが重要。

	協創	経営	人材	組織	技術
Lv5	□ 複数の協創事業を軸 に、業界再編を牽引	□ 経営層の過半数が DX牽引 □ 経営層にグローバル 人材を登用 □ 収益の30%をDXが 牽引	<ul><li>□ 起承転結人材のグロー バル展開</li><li>□ リテラシー教育を資産 化し外販</li></ul>	□ DXが組織の中核化 □ 既存部門の再編が進 み、DX主体の組織に 変革	□ DX実装を自社が主導 □ DX実装の大半がAI、 Cloud、Agile等を全 面採用 □ LXが全面稼動
Lv4	□ 複数の協創事業を牽 引し新事業領域を創 設	□ DXを経営層が牽引 □ 経営層に複数の外部 人材を登用 □ 収益の10%をDXが牽引	□ 外部採用、協創により 起承転結人材を概ね 充足 □ リテラシー教育が本格 化	□ DX推進組織が独立 □ 既存部門によるDX事業も複数事業化 □ 組織風土変革が全社浸透	□ DX実装の過半を自社で対応 □ AI、Cloud、Agile等主要技術を導入、実装が進行 □ LXが部分稼働を開始
Lv3	□ 協創領域を定義し、 経営計画化 □ 自社の強みを活かし た協創事業を開始	■経営計画にDXの Visionを明記、公開 ■経営層に外部人材を 登用 DXにより一定収益を 計上	<ul><li>□ 外部採用、協創による 人材拡充を開始</li><li>□ リテラシー教育の展開を 開始</li></ul>	□ DX推進組織による新規事業が複数事業化 □ 既存部門との業務連携始動 □ 組織風土変革が本格	□ DX実装のためのAI、Cloud、Agile等主要技術を自社導入□ LX計画が承認され、プロジェクト始動
Lv2	□ DX推進に協創が不可欠であることを認知□ 協創にあたっての自社の強み弱みを把握	□ DXの本質を経営層が 理解 □ DX自己診断を実施 □ AS と □ DX に技術人材を 登用 □ DX による収益目標を 設定	□ 起承転結人材の充足性評価により、充足計画済み □ リテラシー教育計画立案済	□ DX推進の組織を立ち上げ済□ DX推進部門と既存部門の連携方法を確立□ 組織風土変革に着手	□ DX実装のための技術 領域を定義 □ LXの必要性を評価し、 実施を計画化
Lv1	■ 自社での取り組みに 集中	□ DXの検討は部門任 せ □ DXが業界や自社の 企業経営に与える影響の認識も不十分	<ul><li>□ DXに必要な人材定義が未了</li><li>□ リテラシー教育計画未着手</li></ul>	■ DX推進のための組織 対応は未着手	<ul><li>□ DXのシステム対応は外 部委託中心</li><li>□ LXのビジョン立案未着 手</li></ul>



## DX簡易組織診断

■ 経団連のDX提言をベースに、アイデミーと慶應義塾大学が連携し、DX 簡易組織診断を開発。DXの科学で用意しているDXアセスメントと合わせて、是非自社を自己診断してみていただきたい。





参照)アイデミーDX簡易組織診断

https://aitec-srv.jp/static/DXAnalytics/top.html



## ブレークスルー3大要素

■ DXを数年実践しての気付きは、以下の3つの変革をトップダウン、かつ同時平行で進める必要があるという点であった。

### ビジネスモデル変革

※本日のテーマその1

- 巨大プラットフォーマーのモノマネの先に解はない
- ・企業単独垂直統合から協創型水平統合(機能別分業)へ

### システム変革

※本日のテーマその2

- 協創にはアーキテクチャの理解と実装が必須
- ・ <u>基幹システム見直しにしっかり投資</u>し、DXに中長期的に備える

## 人材変革

※本日のテーマその3

- D&Iを自然体で実践できる組織が生き残る
- 全社員がデジタル技術を使いこなせないと変革の足枷になる



## 2. ビジネスモデル変革



## コンピューターは昔から仕事を奪ってきた

■ AI以前に、コンピューターは1960年代から、人の仕事を確実に巻き取り、 人とコンピューターの関係は、時代とともに変遷してきた。

#### 鉄道自動改札







チェックしていたのは、 日付、乗降駅、大人子供区 分、切込有無の4点



#### 国際空港出入国審查







チェックしていたのは、 顔写真、IC認証(有効期限、 本籍地、住所氏名等)、航空 券有無、チケットの行き先と 氏名など)



## 事例)警備会社セコム様

■ AI以前に、コンピューターは1960年代から人の仕事を確実に巻き取り、人 とコンピューターの関係は、時代とともに変遷してきた。



SECOV 信頼される安心を、社会へ。



- 現在、警備している建物は約200万。センサーは約6000万。
- これを、機械警備中心に、 2万人の社員で運用なさっている。
- もし、センサーに頼らず全て警備員で賄うとしたら、1建物24時間365日 警備するには5名の雇用が必要で、200万×5=1000万人の警備員の雇用が 必要。
- これを、ITの力で、1/500の人間で実現している。

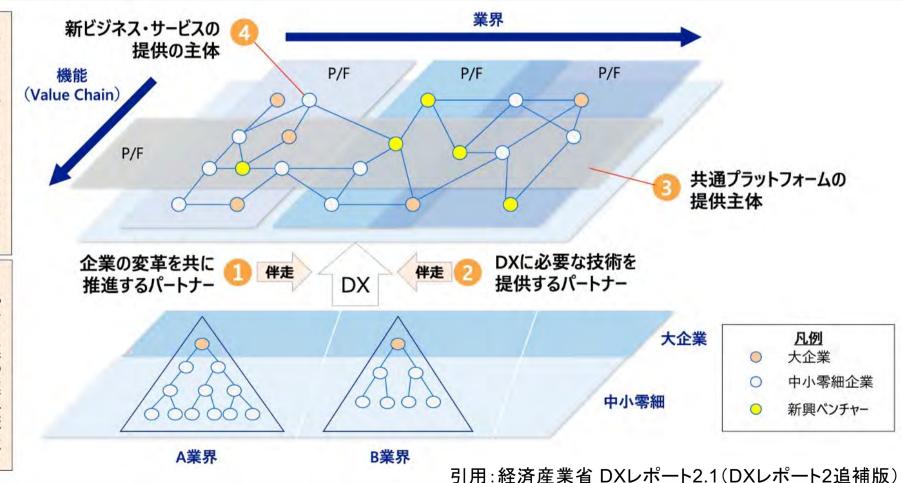
出典:日経調報告書

『人工知能は、経済・産業・社会をひっくり返すのか?~大企業トップがAIIに関してやるべきこと』 https://www.nikkeicho.or.jp/new\_wp/wp-content/uploads/17ai\_lec09komatsuzaki.pdf



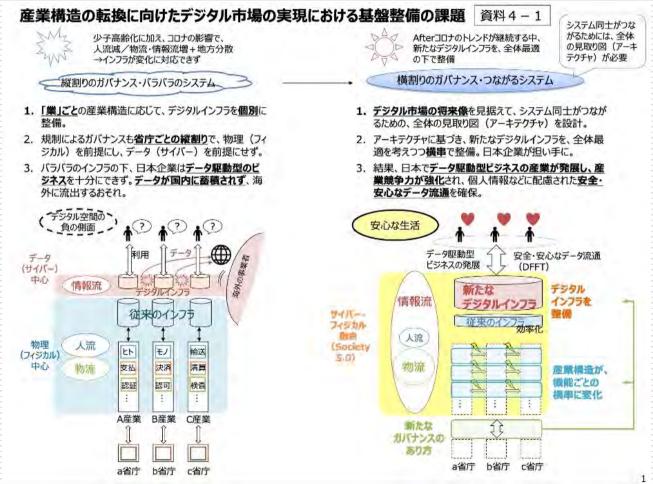
## 経済産業省 DXレポート2.1

■ 経済産業省のDXレポート2.1では、デジタル産業のあるべき姿として、 ネットワーク構造になることを示唆している。



## デジタル産業はネットワーク構造へ

■ デジタル市場における基盤整備は、縦割りから横割りに変革すべきとの 方向性が示された。全体の見取り図すなわちアーキテクチャ設計が要。

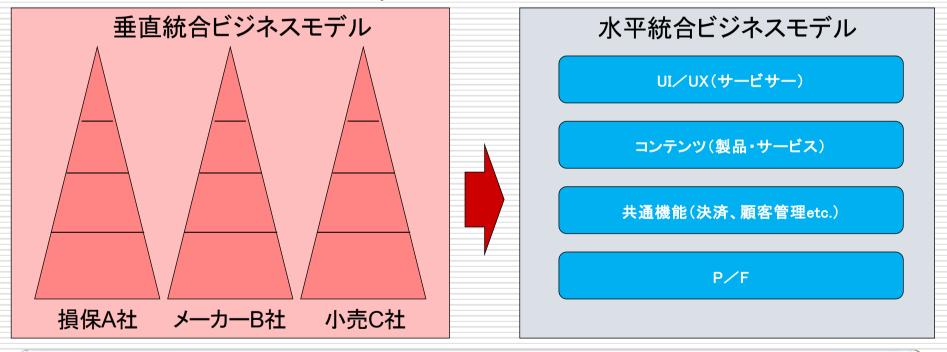


引用:経済産業省 第1回 Society5.0の実現に向けたデジタル市場基盤整備会議



# 垂直統合から水平統合へ

- 垂直統合とは、一企業が企画~フォローまでを一貫し、下請けや販社などと連携し縦割りの産業を構築するビジネスモデル。
- DXにより、水平統合すなわち、機能別にサービス化され、相互にAPI接続され、産業構造がDisruptされる。



### 協創DXを目指すべき理由がここにある



# 水平統合への追随

■ ビジネスモデル大変革は、Disruptorsか既存プレイヤーかに関わらず、 多くの産業で巻き起こると想定される。

# 1. ビジネススキーム激変への対応

質素化、サブスク化が進み、契約計上を10-100倍処理可能とする あらゆる業態に、APIでサービス提供する 全ての保険種類を同一のAPIで同一のサービス提供を行う 等

# 2. ダントツの商品開発スピード

小手先のデジタル商品ではなく、基幹商品を数倍のスピードで提供する

# 3. インフラの柔軟性

柔軟にスケール出来るよう、全面cloud-ready化させておく 基幹商品・業務そのものにAI等の新技術組み込みを可能とする



# (SOMPO事例)



# SOMPOの取り組み例1(組織の抜本見直し)

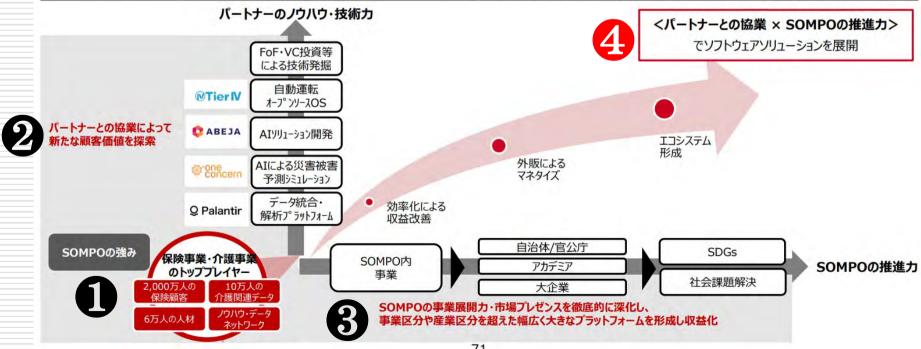
■ SOMPOでは、データ事業立ち上げに際し強力なパートナーとの協業 を軸に組織を柔軟に変化させ、新事業の新境地を目指している。

ソフトウェア事業モデルの創出





- 保険事業・介護事業のトッププレイヤーとして事業活動から得るリアルデータと、提携パートナーのノウハウ・技術力という、各々の強みを組み合わせ、これまでの領域・守備範囲にとどまらない新たなソリューションを創出。これをSOMPOグループの市場プレゼンスを活かした推進力によって幅広い領域にサブスプリクション型のソフトウェア・ソリューション(リアルデータプラットフォーム)として提供
- 持続可能な社会の実現へ貢献するとともに、圧倒的なソリューションのラインナップを有するソフトウェア事業モデルを創出し、収益拡大を図る



参照) https://www.sompo-hd.com/-/media/hd/files/doc/pdf/ir/2021/20210526.pdf?la=ja-JP



# SOMPOの取り組み例2(才能の発掘)

- デジタル事業立ち上げに際し、営業部門にビジネスアイディアを募集。
- お客様の声をベースとした300件を超える事業アイディアが集まる。



#### 多岐にわたる事業領域

✓ モビリティ	54件
✓ 防災・減災	20件
✓ 保険	30件
✓ ヘルスケア	36件
✓ 食・農水	11件
✓ エネルギー	22件
✓ スマートシティ	2件
✓ 個別案件等	121件

#### 業務改善から新規ビジネスまで

$\checkmark$	新規ビジネス	111件
$\checkmark$	改善	185件

案件の90%は保険以外、30%以上が新規事業のビジネスアイディアであり、企業変革の可能性を強く実感した



# 3. システム変革



### VUCAへの備え

■ 2015年頃から、今後VUCAの時代に突入していくことがさかばれは じめていた。多くの企業で、デジタル技術を駆使し、DXを推し進める ためには、現行基幹システムが足枷になりつつある。

V	U	C	A	
Volatility	Uncertainty	Complexity	Ambiguity	
変動性	変動性不確実性		曖昧性	

- 1. Resilience (回復力) とLFP (軽い足跡) ベースの経営
- 2. Diversity Linclusion

日本の産業の多くはDX前夜。今後段階的にDXが進行すると 予想する



# 水平統合の衝撃

- ■水平統合による産業のDisruptは進みつつある。
- コロナ禍で、デジタル戦略が加速した企業、停滞した企業に二分化されたが、一部の企業が既に大変革(トランスフォーメーション)を仕掛けており、早期に取り組まねば、DXに飲み込まれる。

#### 既存産業が持つべき危機感(例)

- 自社製品・サービスのOEM化やホワイトレーベル化が進まないか
- サブスクビジネスモデル化に組み込まれないか
- 既存の商品・サービス、特約などが、サービスとして独立しないか
- 決済単位が超小口化しないか
- 極端な顧客単位の個別サービス化にならないか
- CXが進み、業界をまたがるサービスが主軸にならないか
- 製品・サービスサイクルが、極端に短期化しないか
- トランザクション量が激増(10-100倍)しないか
- 基幹システムでの製品・サービス対応に限界が来ないか



# システムの使い分け:これまでの常識

■ 多くの企業は、DXを進めるためシステムを二分し、AIなど最先端のデ ジタル技術は、Mode2側で実装してきた。

# SoE / Mode2 SoR / Mode1

- フロントシステムなどが対象
- 柔軟性とスピードを重視
- デジタル部門(一部IT部門)が担当
- 小規模かつアジャイルで開発

- 基幹システムが対象
- 堅牢性、安定性を重視
- IT部門が開発から運用まで担当
- 大規模かつ局面化して開発

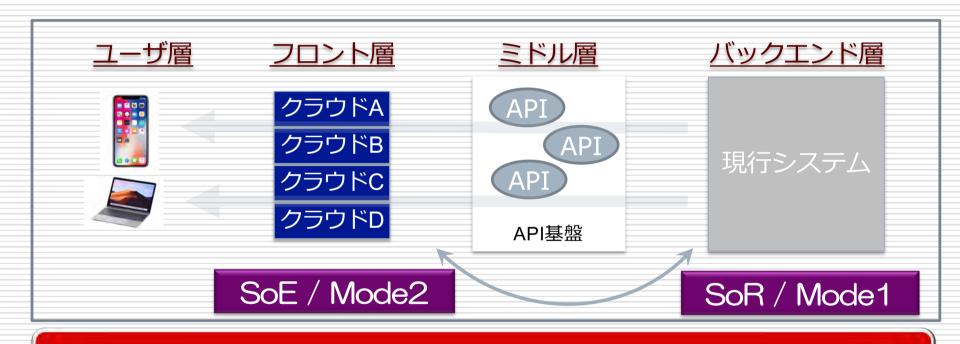
(X)SoR : Systems of Record SoE : Systems of Engagement

この分類方法は2015年頃に流行し、今日まで使われている が、今後もこの考え方が通用するのであろうか。



# 改善or刷新? APIへの過剰期待は禁物

- APIはMode1とMode2両システムをつなげる役割を果たす
- 日本の大多数の企業はこの構造を採用し、基幹システムを温存しているが、弊社では今後のデジタル化の荒波に耐えられないと判断した。



現行システム側の機能が旧態依然の構造だと、いくらAPI 接続しても、劇的な新要件(DX)に対応しきれない



# (SOMPO事例)

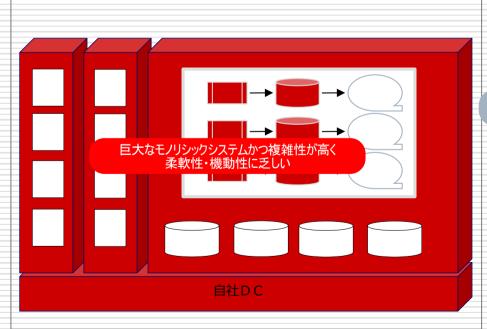


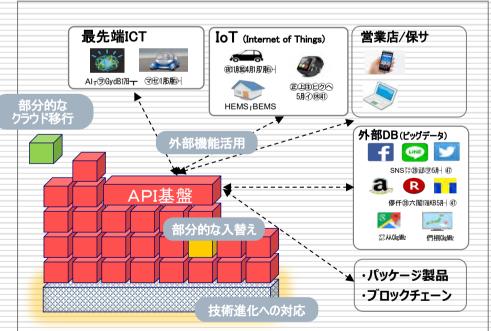
# 基幹システムの全面刷新

- ビジネスモデル変革や技術変化に耐えうる、柔軟なアーキテクチャを採用した新基幹システムに刷新。2021年より稼働を開始。
  - Javaベースのオープンシステムに全面刷新
  - 再構築により、大幅なプログラムサイズの削減を実現
  - 疎結合化(マイクロサービスアーキテクチャ)、接続容易性などを実現

#### 現行システム (約2億Step)

#### 刷新システム"MIRAI"(約3,000万Step)

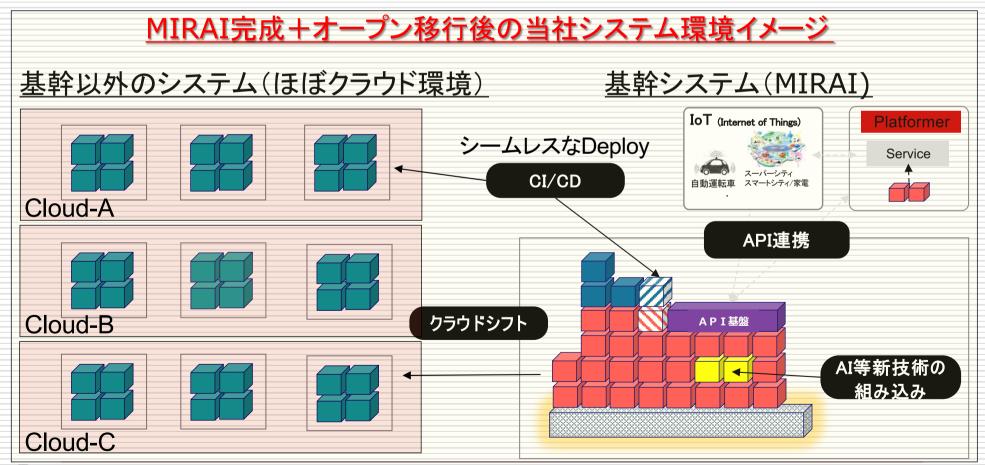






# 新基幹システム(MIRAI)はDX対応

- 基幹システムをオープン系で再構築し、システムの「ブロック構造化」 (コンポーネント化)を実現した。
- ビジネスモデル激変を想定した「VUCA仕様」アーキテクチャを志向。



# VUCA対応の基幹システムへ

- アーキテクチャを考える上で、最も重要だったことは、DXにより現在 の垂直統合型のビジネスモデルが、数年から10数年程度かけて、水平 統合型に緩やかにシフトすると想定したことである。(すなわち両方の 要件を満たす必要がある)
  - 契約主体が変わる

• 販売主体が変わる

• 商品単位が変わる

- 保険がサービス化される
- 協創ビジネス化される

#### アーキテクチャ要求



垂直統合型+水平統合型に適応できる全体アーキテクチャ

オンプレ+クラウド両環境間でのシームレス化

BRMS・アプリ部品・アプリそのものの互換性を追求



# 全面再構築を後押ししたDX

■ 現行システムの老朽化に端を発した基幹システム再構築であったが、 並行してDXが進行、この劇的な変化に対応出来るのかが問われた。

> ビジネスモデルが 大転換する

AI等の最新技術が 柔軟に組み込まれる

弊社が想定するDXは、業界再編を 含む大胆なビジネス変革レベル 基幹システムであっても新技術の 荒波にさらされる

ビジネスモデル面、テクノロジー面の両面でシビアに基幹システムを評価し、対策立案・遂行を繰り返す必要がある



# 4. 人材変革

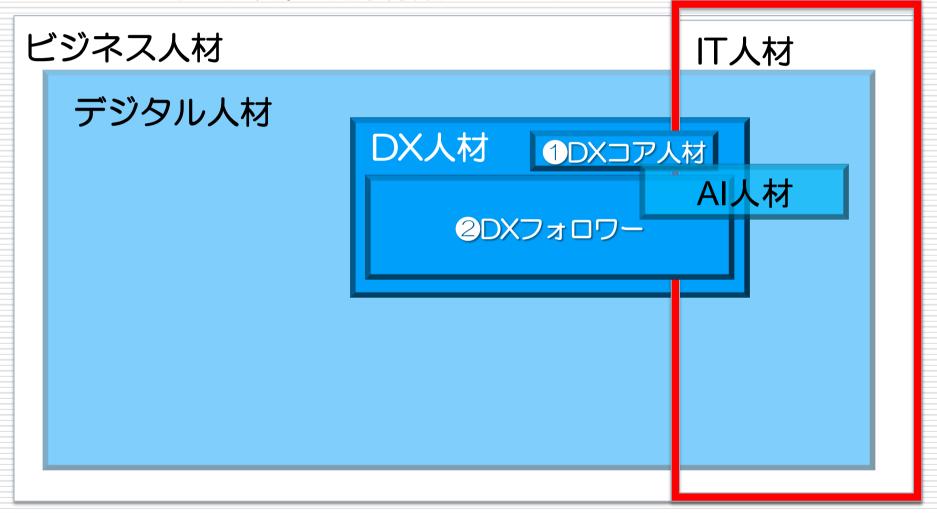


出典: 日経コンピュータ 2021年11月11日号



# 人材タイプの因数分解

■ IT人材、デジタル人材、DX人材など、さまざまな人材カテゴリーが使われているが、以下の通り分類してみた。



# DXを推進するDX人材像

■ デジタル技術を核とした変革を起こすには、時代や市場、業界、企業を変革に導く一握りのDXを推進できる人材が必要。

#### 2レイヤーのDX人材(成熟度)

① DXコア人材 : ビジネス+技術ベースのDX牽引人材

② DXフォロワー: DXを理解し社内浸透を牽引する人材

#### 4タイプのDX人材(役割)



Oから1を仕掛ける人材



1をN倍化する構造をデザインする人材



1をN倍化する過程で効率化・リスクを最小化する人材



最後に仕組みをきっちりオペレーションする人材



## DXコア人材の例

- 先に触れた経団連の提言における「人材」の項目では、DX推進に必要な多様な人材を「起承転結」で整理した。
- それを踏まえ、「DXコア人材」として、本来のDXを強力に推進する 人材を「ビジネス」「IT」の両軸で細分化、以下の4分類の人材で整 理を試みた。

 起
 ビジネスデザイン人材

 承
 事業化人材

 転
 高度IT開発運用人材



# DXコア人材の例

■「起承転結」を司る4分類の人材は、前頁の通りビジネス系人材とIT 系人材に概ね分かれ、以下のような人材像と想定される。

ビジネス系

### ビジネスデザイン人材【起】

デジタル技術を理解の上ビジネスを革新し、新事業として立ち上げられる 人材。いわゆるOから1人材。

### 事業化人材(承)

デジタル技術を核に、新事業を段階的に規模拡大し、組織の拡張を統括できる人材。いわゆる1から100にスケールできる人材。

T 系

## 先端テクノロジー人材 【起・承】

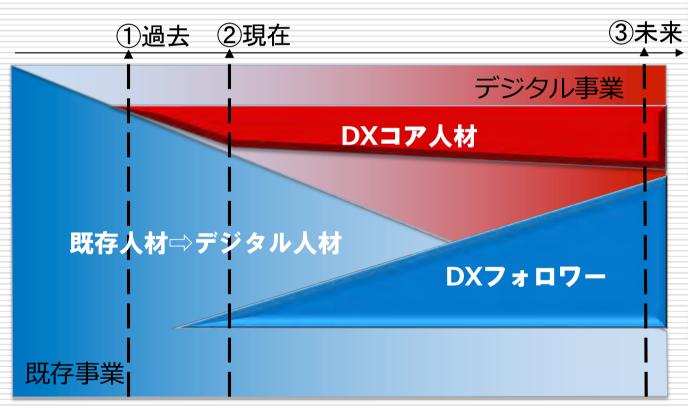
アーキテクト、データサイエンティストなど、AI等のテクノロジーを操れるエキスパート人材。

# 高度IT開発運用人材【承·転·結】

堅牢な基幹システムと柔軟なデジタル系システムを併用し、連携できる開発と運用技術を併せ持った人材。

## DXフォロワーが必要な背景

- 企業にとって変容を求めるDXのハードルは高い。
- 一握りの「DXコア人材」の確保に加え、既存人材の変革を促し、デジタル技術を使いこなせる「DXフォロワー」の増幅が喫緊の課題。



#### ① 過去

- プラットフォーマなど一部の 企業がDXを進める
- 企業内DXコア人材がデジタル事業を強力に推進

#### ② 現在

- DX推進には圧倒的な人材 不足(↓部分)
- 一部の既存人材はDXフォ ロワーにリスキリング

#### ③ 未来

- DXはDXコア人材+DXフ ォロワーにより推進される
- リスキリング出来ない既存 人材のフォローが課題



## DXフォロワーになれますか?

- デジタル人材をクリアできたら、次はDX人材。DXコア人材は一握りなので、少なくともDXフォロワーへのリスキリングが必要。
- ただし、ハードルは低くない。下記の設問、クリアーできます?
  - 上司が年下や女性であっても気にならない
  - インド人や中国人がチームにいると、むしろワクワクする
  - 過去培った知識やノウハウは、常に進化させるべきと考えている
  - 保管や検索に向かないので、紙が嫌いだ
  - SlackやTeamsは仕事に欠かせない
  - AIは万能ではないが、任せられる仕事があり自分にはプラスと思っている
  - デジタル人材だけで仕事すれば、数倍の生産性が出ると思っている
  - デジタル技術で、会社内の意思疎通は劇的に改善できると確信している
  - 多くの会議は、デジタルツールによる方法で相当置き換えできる

DXコア人材やDXフォロワーは、既にこういった考え方が 定着、すなわちDiversity & Inclusionを自然と理解し実践 している。



# (SOMPO事例)



# 社員のリテラシーアップ策

■ 2020年10月に、損保ジャパン大学を創設。オンライン講座やe-ラーニングを中心に、全職員を対象とした講座、ゼミを推進中。



- コロナ禍も重なり、受講者は急増し、人気のオンライン講座は千名を 超える受講。
- DX関連、ITツール関連も段階的に充実化。



# 損保ジャパン大学 ITリテラシー教育

- 全社員がオフィスインフラの効果を最大限に享受できるよう、リテラシー向上に向けた支援体制を強化するとともに、現場での学び合い・教えあい文化を醸成する。
- 代理店・お客さま・未取引企業に対しIT企業から情報を提供することで、現場の業務に貢献する。

#### ITスキル教育

目標	実施した施策	
基礎スキル習得(全社員)	デジタルツール基礎活用研修	
応用スキル習得(希望者)	GAS研修(SOMPO LIVE)	
活用促進	取組み共有イベント(Currents)	
活用推進	セールスフォースインタビュー動画 (SOMPO Stream)	
(セールスフォース)	セールスフォースセミナー (SOMPO LIVE)	

#### 現場支援

# デジタルツール基礎活用研修の徹底実施

#### ■概要

目的	全社員のデジタルツール基礎スキルの習得による意識・スキルの平準化および活用促進				
開催概要	・当社社員が最低限身に付ける必要のある「デジタルツール基礎活用スキル」を定義 〈対象ツール〉 Google Workspace、Webex ※全社員の利用が前提となる「コミュニケーションにかかわるツール」 ・スキル習得に向け、①学習資料による学習、② e ラーニング講座の受講 を実施 ・80点未満(不合格者)は、後日、テストを再受験 「50点未満・未受講者は、専用の研修も受講(動画の視聴による自己学習)→デジタルツール基礎活用スキル強化研修 ・実施案内: 通達『「デジタルツール基礎活用研修」の実施』 通達『「デジタルツール基礎活用研修」不合格者・未受講者の実施事項(研修・e ラーニング講座受講)』 ・テスト・アンケート結果をもとに個別ヒアリングを行い、霧島支社、釧路支社に個別研修実施				
時期	・初回受講 : 2021年8月2日(月)〜9月10日(金) ・不合格者・未受講者: 2021年11月4日(木)〜12月6日(月)				

#### ■実施結果

受講者数	22,016名(受講率96%) 未受講者:982名(人事データに反映していない休職者数と概ね一致)				
合格率・受講数	初回合格率:83%、最終合格率:95%(合格:21,831名、不合格者185名)				
アンケート結果	・受講形式(1回のみ受験可、不合格者は後日再受験や研修受講)について、「厳しすぎる」との声があった一方で、 「緊張感があり全員が真剣に取り組む機会となり、会社全体の意識変革および・理解促進につながると感じた」といった声が多数 ・その他、目立つ声 ⇒継続した学習機会を希望、活用事例の展開、活用指針やスタンダードを確立すべき				
効果・変化	知識向上、価値創造・業務効率化、活用への意識改革、満足度向上				

#### ■課題

■次年度

- ・さらなる知識習得・意識改革が必要
- •活用促進
- 利用機会の拡大
- ・職場・組織単位での活用



全社員を対象とした底上げ策を継続実施



# デジタル / IT部門の両軸体制

■ 2016年当時、IT部門は基幹システムの刷新を開始し、IT人材は逼迫。

同時

実現

■ 別途デジタル部門を立ち上げ、外部人材の積極採用を進めた。



俊敏性

エンゲージメント カスタマー・エクスペリエンス重視



SoR
(Systems of Record)

[Mode1]

SoE
(Systems of Engagement)

「Mode2」

■ システム開発を、上記のように大きく二分し、SoE側はデジタル部門で 試行、開発する分担とした。



# IT部門も変革が必要

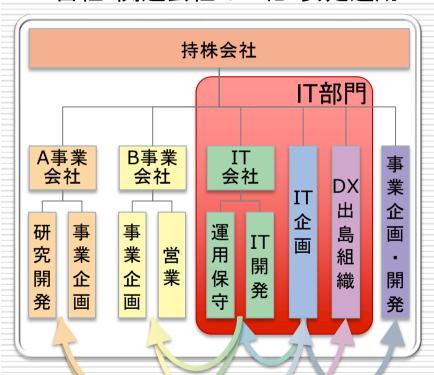
■ 長らく自社のビジネスのIT化がIT部門の大きな責任であったが、DX となると、IT部門の役割は多岐にわたる。

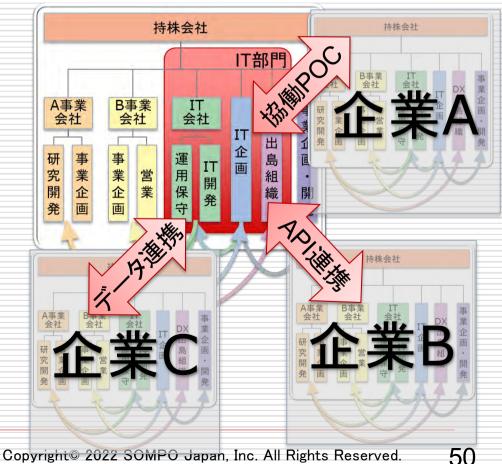
従来のIT部門

これからのIT部門

自社・関連会社のIT化・安定運用

複数の企業と様々な形態で連携し価値を協創





# IT部門の5大改革(2015年~)

- 未来革新プロジェクト立ち上げ前より、IT部門の広範囲な変革に着手。 改革とはいっても、スタンダードな施策を愚直に遂行したまで。
- 1. 部門戦略の立案
- 2. 人材改革
- 3. 調達改革
- 4. 開発•運用改革

5. 組織・風土改革

キャリア・新卒採用拡大

スキルの見える化

専門職制度本格導入

スキルアップ環境整備

ITIL / COBIT / ITSM整備 全社Agileシフト

経営理念の刷新と普及

組織の3カテゴリー再編

# IT部門変革の成果(2014年~2021年)

### 1. IT人材のリフレッシュ

ここ数年でキャリア・新卒技術者を約500名採用 退職、出向者ローテーションもありエンジニアの約半数が入れ替わった

#### 2. 専門職の大幅増加

PMP取得者は13名から210名に大躍進 スペシャリティ認定者は4年で140名(PM 60名、その他 80名)

#### 3. Agility-Native全面シフトを開始

全社推進部門を設置し、オープン系、メインフレーム系を問わず、アジャイルワークスタイルの全社導入を開始

### 4. デジタル/AI実装の自前化

デジタルおよびAI分野の多くは、SIに不向きなため自前化で推進データサイエンティストも増え、AIやクラウド技術者も増殖中



### IT部門における人材育成

■ IT部門人材は、長年システム開発・運用業務を継承しながらスキルを 維持。システムそのものも、人も、急激な変化には一定無理がある。

#### IT部門変革の要諦 (例)

デジタル部門偏重は、歪みを招く

中長期的な明確なビジョン提示は必須

既存業務領域にも段階的な変革を課す

専門職制度導入(年功序列排除)など技術重視を強調



# 5. まとめ



## DXNGワード

- 皆さん、うっかり以下のような言葉、仕事場で発していませんか?
  - □その話は聞いていないよ
  - □いい案だね、検討してみるよ
  - □次回の会議に、オブザーブ参加しておいて
  - ■発言の意図を汲み取ってほしい

こういったカルチャーが、D&Iを大きく阻害していることに気付かせ、次世代カルチャーにシフトすることが重要



# まとめ

### DXはバズワード化し大半は単なるデジタル化レベル

- DXの3大変革(ビジネスモデル、システム、人材)はハードルが高く、 多くの企業は挫折しかねない。
- DXアセスメントなどを活用し、処方箋(ロードマップ)の作成をお勧め する。

#### 協創DXへの近道は、まずは「DXの科学」から

- デジタル化、デジタライズ化を経たトランスフォーメーションは、なかなかいードルが高い。
- 「DXの科学」に取り組み、DXチャレンジャー企業は、DXサポーター企業との協業により、段階的なDX推進を強くお勧めする。

#### 変革は焦らず長期戦で

• 3大変革の克服は容易ではないため、持続的成長を目指して焦らず地道 に取り組みながら、DXの民主化を目指すことをお勧めする。



## 皆様へのメッセージ

# 1. 強い使命感

# 2. 実行力

この国の復権を目指し、皆様方の強いリーダーシップに期待しています!





# アジェンダ



- 1. 16:00-16:10 オープニング
- 2. 16:10-17:10 浦川伸一氏ご講演
- 3. 17:10-17:50 Q&A ダイアログ/対話
- 4. 17:50-18:00 クロージング

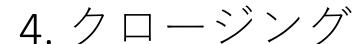


# アジェンダ



- 1. 16:00-16:10 オープニング
- 2. 16:10-17:10 浦川伸一氏ご講演
- 3. 17:10-17:50 Q&A ダイアログ/対話
- 4. 17:50-18:00 クロージング





グラレコ (グラフィックレコーディング) ご紹介

> 次回6月度ゲストセミナー ご案内

アンケート回答のお願い [セミナー資料ご希望の方は是非!]

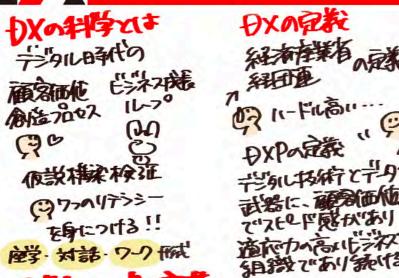
#### 2022年6月23日 (木) 16:00-18:00 **岸和良**氏

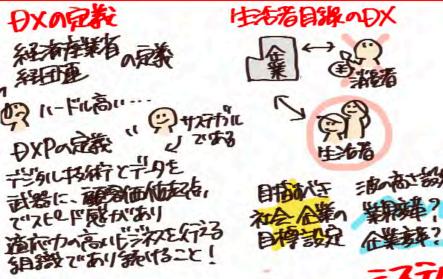
住友生命保険相互会社 理事&デジタルオフィサー 株式会社豆蔵 デジタル担当顧問 日本イノベーション融合学会顧問 デジタル人材育成学会役員

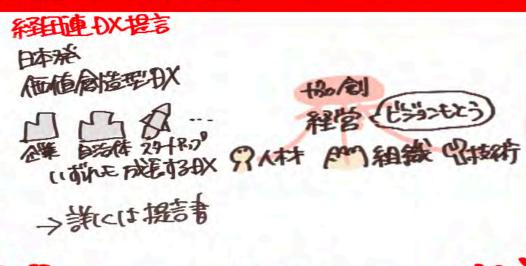
Zoomチャット記載のURLをクリック

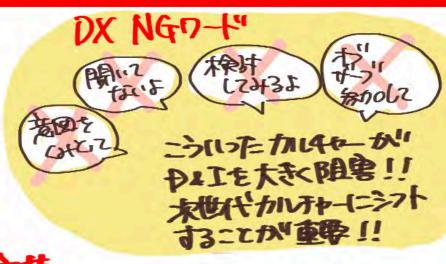
右のQRコードからアクセス

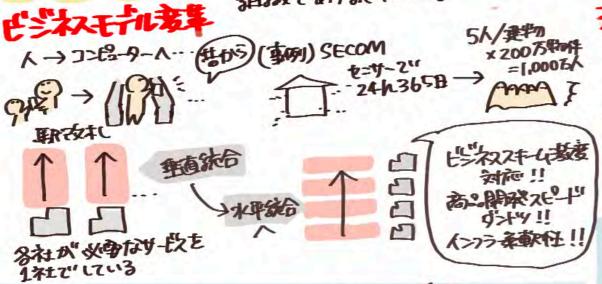


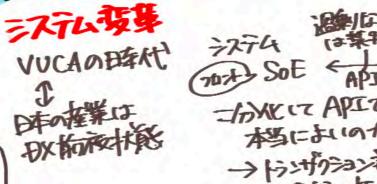




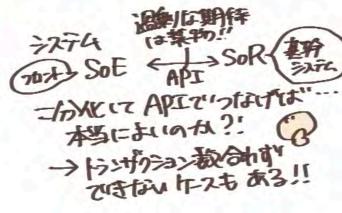








小平新台里也学和王元山人。对方



VUCALITIES THE STA

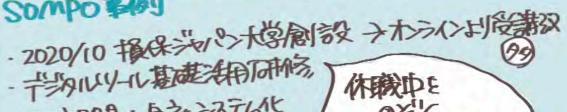


和XTCXG 世学双. 按师风客

- DX7107-14 和均浸透穿引

ンードタル人材(デタル(をごろ)からDXフォロケーに おるには老被な事が方ギリ

### SOMPO事何



· 丁部門:自社分入下以此 他社员重接人

046 [新發發達压]

# SomPo事例 BIRA 保険業 np. 39.11-



# · A工等の最新技術が組出込み代けい Q.企業内で変革を進めた要素とは?

A.キャリア採用が多いため自社の文化を 見つめ直すキッサケもみかったら 採用が難いいのであれば、化業種の 企業と利害な談論で生る場を 設はるもしつの方法とにてある。

SOMPO事例

其第3774世刷新!

O. DXJP从林内的图的图片(trint)?

0.01:1=1=5 →起の人様はそんなにいない 起 承転結 BKTE 新まらまられるい 和17採用(M)

#教科和对公童对12,他的技术。 経過会議を通さずに使える利を準備し、 トラッキングでしないようにしている

Q.内影化艺生的子で"外野WTE 借りるとろはないか? A.7731元十部份は 外部の失進スタルを 治用は方がよい。 fxの科学も ノウルかが詰まて しいるので アットナターは 外部がよいのでは。

A. 甘油剂相手は海外でも、 カーラェアではもDNPと組んでり

Q.システム刷新(マベクロアキテンチャ化)を 進めるまかととしま? A. マイクロアーキテクチャノまプロモではい 政結合の解は東慈を検証が 必要!! 特にパッチサーゼス(まるいでは) トランザクションの待ちもやけきると

経果 密結合になる…!! Q. DXフォロワー人材はさらたら育っか?

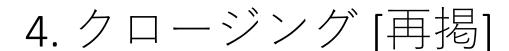
A. も人人材を研究をたくさんこなせば香かり というとなみなけるまくいかない。 時間代初秋3. 从之意、不存之は有办人 というとそうもいかない 設閉かり了人材のおび午ム組入手方が

よいという果もある。

P1节7(\$自社2"。 O.日本兴·怡剧·DXO度的は?

(GCP. AZURE, AWSTZEE) 進めたり。





グラレコ (グラフィックレコーディング) ご紹介

> 次回6月度ゲストセミナー ご案内

アンケート回答のお願い [セミナー資料ご希望の方は是非!]

#### 2022年6月23日 (木) 16:00-18:00 **岸和良**氏

住友生命保険相互会社 理事&デジタルオフィサー 株式会社豆蔵 デジタル担当顧問 日本イノベーション融合学会顧問 デジタル人材育成学会役員

Zoomチャット記載のURLをクリック

右のQRコードからアクセス





# DXの科学アカデミー

貴社の中堅社員、若手社員、そして新入社員が デジタル時代のビジネスを語り デジタル技術とデータを前提に顧客価値を創造 そして "DXに強い人材" にな 全32時間 完全オンライン双方向型研



### 募集要項

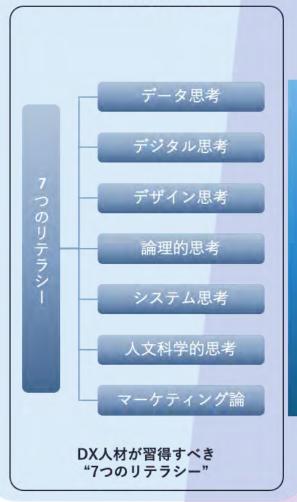
2022年8-11月学期 土曜日13:00-17:00集中開講 2022年9-12月学期 每週火曜日15:00-17:00開講 2022年10月-2023年1月学期 毎週水曜日15:00-17:00開講

「DXの科学」のミッション…貴社と貴社社員をデジタルに強い組織と人材に変える

#### 「DXの科学®」の目的・目標

デジタル技術とデータを前提に高速・高頻度・高成功率で 顧客価値を創造できるヒトと組織をつくる

"ヒトをつくる" DX人材育成



"組織をつくる"

#### 顧客価値創造プロセス構築



集合研修型DX人材育成プログラム「DXの科学」アカデミーは…

"デジタル時代のシン・顧客価値創造プロセス"を体験、 仮説構築&検証に必要な **"7**つのリテラシー" と 101個のツールから成る"「DXの科学®」ツールセット"を修得

・顧客価値創造プロセスを遂行つのリテラシー を駆使して、

受講者数を少人数 (最大20名) に絞り、 "頭と口と手を使う"対話・討議中心、かつ、 デザインスプリント形式の4ヶ月32時間 完全オンライン双方向型研修

#### "デジタル技術とデータを前提に顧客価値創造" … 他に類を見ないカリキュラム

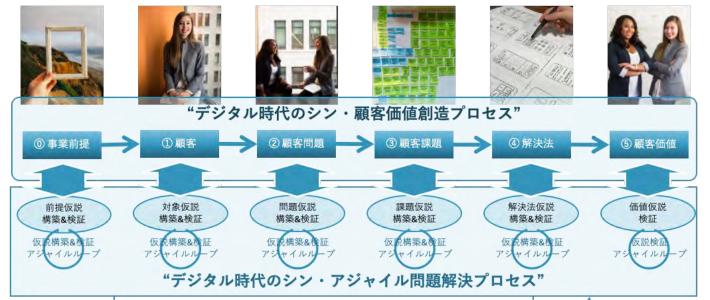
#### 「DXの科学」アカデミー … 1学期4ヶ月、計32時間でDX人材を育成する3つの特色あるプログラム

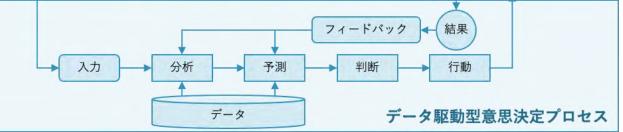
#### ①「DXの科学®」セミナー

② デジタルアウト オブザボックス

② デジタルアウト オブザボックス

③ DXワークアウト [研修型デジタルサービスデザイン]







101個の厳選したツールから成る"「DXの科学®」ツールセット"

データ思考

デジタル思考

デザイン思考

論理的思考

システム思考

人文科学的思考

マーケティング論

仮説構築&検証に必要な"7つのリテラシー"



















#### 現在受講者を募集中の3つの学期の募集要項

	項目	8-11月学期	9-12月学期	10-1月学期	
	開講期間	2022年8月1日 ~2022年11月30日	2022年9月1日 ~2022年12月31日	2022年10月1日 ~2023年1月31日	
	開講日時	土曜日集中 (不規則) 13:00-17:00	毎週火曜日 15:00-17:00	毎週水曜日 15:00-17:00	
	開講回数 [1回当り時間] 8回 [×4時間/回]		16回 [×2時間/回]	16回 [×2時間/回]	
	募集期限	2022年6月30日	2022年7月20日	2022年8月20日	
	開講可否通知	2022年7月1日	2022年7月21日	2022年8月21日	
	受講費入金期限	2022年7月31日	2022年8月31日	2022年9月30日	
	受講者定員	最大20名[最少開講人員5名]			
	実施形態	オンライン			
	使用オンラインツール	Zoom [必須] / Miro [必須] / Slack [推奨]			
	受講費	300,000円/人 [税抜]			
	受講申込サイト <a href="https://forms.office.com/r/xxgiBh0g9A">https://forms.office.com/r/xxgiBh0g9A</a> <a href="https://forms.office.com/r/xxgiBh0g9A">https://</a>			https://forms.office.com/r/H 4L8dwC1qS	
	L = 3 op → L*	国教祭 <b>司</b> <b>政策</b> (李登)	□ (水) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1	国旅客国 74362380	

	上記QRコード			72 (%)	
	上記の3つの学期の開講スケジュール				
	プログラム概要	No.	8-11月学期	9-12月学期	10-1月学期
	①「DXの科学®」セミナー	01	8月20日 (土)	9月 6日 (火)	10月 5日 (水)
	[8時間/座学 + 対話] なぜ "デジタル技術とデータを前提に高速・高頻度・高	02	8万20日 (土)	9月13日 (火)	10月12日 (水)
	成功率で顧客価値創造"かを理解し、"デジタル時代のシン・顧客価値創造プロセス"の実行法を修得する。	03	8月27日 (土)	9月20日 (火)	10月19日 (水)
	ファ 酸中間間別に入り入口瓜と同時する。	04	8万27日 (土)	9月27日 (火)	10月26日 (水)
	② デジタルアウトオブザボックス [6時間/対話 + 討議] デジタル破壊者がどう "デジタル技術とデータを前提に	05	9月 3日 (土)	10月 4日 (火)	11月 2日 (水)
		06	9万 3日 (土)	10月11日 (火)	11月 9日 (水)
	顧客価値創造"を行なったかを調査、受講者自ら"箱から出て、常識を捨ててデジタルと向き合う"を実践する。	07	9月10日 (土)	10月18日 (火)	11月16日 (水)
	③ DXワークアウト	08		10月25日 (火)	11月30日 (水)
		09	10月 8日 (土)	11月 1日 (火)	12月 7日 (水)
		10	10万 6日 (土)	11月 8日 (火)	12月14日 (水)
		11	10月22日 (土)	11月15日 (火)	12月21日 (水)
		12	10万22日 (土)	11月22日 (火)	12月28日 (水)
		13	11月 5日 (土)	11月29日 (火)	1月 4日 (水)
		14	11/J J H (11/	12月 6日 (火)	1月11日 (水)
		15	11月19日 (土)	12月13日 (火)	1月18日 (水)
		16	11/11/11/11	12月20日 (火)	1月25日 (水)

#### 多彩かつDX経験豊富な講師陣



#### 村上和彰

株式会社DXパートナーズ シニアパートナー & 代表取締役 国立大学法人九州大学 名誉教授 事業構想大学院大学 客員教授 京都大学博士 (工学)

1987年より九州大学にてコンピュータシステムアーキテクチャの教育研究に従事、2015年末に早期退職。その間、情報基盤研究開発センター長、情報統括本部長、公益財団法人九州先端科学技術研究所副所長を歴任。2016年2月に株式会社チームAIBODを創業、多くの企業のAI導入、データ利活用、DXを支援。2020年4月に株式会社DXパートナーズを創業。

#### 道山淳児

株式会社DXパートナーズ シニアパートナー & 取締役 公益財団法人九州先端科学技術研究所 特別研究員

1985年に松下電器株式会社 (現 パナソニック) に入社、半導体メモリ、ニューロコンピューティング、画像圧縮伸長処理LSIの研究開発に従事。2008年 デジタル家電のプラットフォーム開発センター長、パナソニックアドバンステクノロジー (株)取締役、パナソニック理事。2011年より本社R&D戦略室長・理事、産学連携センター長、全社AI強化推進室長、パナソニックラボラトリー福岡所長を歴任し、2020年5月に退職。2020年6月より現職。



#### 横田英史

株式会社DXパートナーズ アドバイザリーパートナー (一社) 組込みシステム技術協会 理事

1982年に川崎重工業に入社。1986年 日経マグロウヒル (現 日経BP) に入社。1998年 BizIT (現 日経クロステック) 創刊編集長、2001年 日経コンピュータ編集長、2011年 執行役員、2013年 日経BPコンサルティング取締役、2016年 日経BPソリューション ズ代表取締役社長を歴任。その間、情報処理推進機構 (IPA) ソフトウェアエンジアリングセンターフェロー。2018年11月に退職、ETラボ設立。2020年4月からDXパートナーズアドバイザリーパートナーを兼務。

#### 井上あきの

株式会社DXパートナーズ アドバイザリーパートナー Minimal Research代表 東京工業大学テックリプログラムプロジェクトマネージャ

東京工業大学理工学研究科情報科学専攻修了、パナソニック入社。マルチメディア通信、デジタル家電プラットフォーム研究開発業務の中でオープンイノベーションプロジェクトを多く経験。 2012年 Panasonic R&D Center Singapore社長、2018年 Panasonic Laboratory Tokyo所長、共創ラボにて4年間イノベーション創出プロセスモデルの研究と実践に取り組む。2021年より技術経営アドバイザとして複数の価値共創プロジェクトに参画。





#### 德永美紗

株式会社DXパートナーズ アドバイザリーパートナー Code for Fukuoka 代表

九州大学大学院数理学府修了。10年以上、システムエンジニアとして地場のIT企業に 勤務。2020年7月に独立、現在は自治体や企業向けのDX推進ワークショップのファシ リテーターやグラフィックレコーダーとして活動。2020年7月からDXパートナーズ ア ドバイザリーパートナーを兼務。併せて、Code for Fukuoka 代表として、社会課題の 解決を目指してソーシャルデザイン活動を実施。

#### 今後の開講スケジュール

	学期	募集期限	受講費入金期限	開講期間	講義日
	2022年8-11月学期	2022年6月30日	2022年7月31日	2022年8月1日 ~2022年11月30日	土曜日集中 13:00-17:00
	2022年9-12月学期	2022年7月20日	2022年8月31日	2022年9月1日 ~2022年12月31日	毎週火曜日 15:00-17:00
	2022年10-1月学期	2022年8月20日	2022年9月30日	2022年10月1日 ~2023年1月31日	毎週水曜日 15:00-17:00
	2022年11-2月学期	2022年9月20日	2022年10月31日	2022年11月1日 ~2023年2月28日	未定
	2022年12-3月学期	2022年10月20日	2022年11月30日	2022年12月1日 ~2023年3月31日	未定
_	2023年1-4月学期	2022年11月20日	2022年12月31日	2023年1月1日 ~2023年4月30日	未定
	2023年2-5月学期	2022年12月20日	2023年1月31日	2023年2月1日 ~2023年5月31日	未定
	2023年3-6月学期	2023年1月20日	2023年2月28日	2023年3月1日 ~2023年6月30日	未定
	2023年4-7月学期	2023年2月20日	2023年3月31日	2023年4月1日 ~2023年7月31日	未定
	2023年5-8月学期	2023年3月20日	2023年4月30日	2023年5月1日 ~2023年8月31日	未定
	2023年6-9月学期	2023年4月20日	2023年5月31日	2023年6月1日 ~2023年9月30日	未定
	2023年7-10月学期	2023年5月20日	2023年6月30日	2023年7月1日 ~2023年10月31日	未定

スケジュールは事前の予告なしに変更となる場合があります。最新のスケジュールについてはお問い合わせ願います。



# DXの科学は・・・

すべての企業人の悩み

「デジタル時代にビジネスを成長させるために いま我が社が挑戦すべきことは?」にお答えします。

それは「デジタル技術とデータを前提に高速・高頻度・高成功率で 顧客価値を創造できるヒトと組織をつくる」ことです。

NAME OF THE PARTY OF THE PARTY

株式会社DXパートーズが、供する個社向け

DXスター

プログラムは、 たとえればアスリートの

漕艇法改革に相当する "顧客価値創造プロセス構築" 軸と 筋力強化に当たる "DX人材育成" 軸の 2軸で貴社のDX挑戦を強力に支援します。

#### **DX PARTNERS**

#### 貴社のDX挑戦に即効力を発揮する9つのメニューから、ニーズに応じて自由に選択

#### メニュー① 「DXの科学®」セミナー [座学]

対象者: 経営層から幹部社員、中堅社員、一般社員、新入社員まで全社員

到達目標:「デジタル時代にビジネスを成長させるために、いま我が社が挑戦すべきことは?」との問いに対して、なぜ「デジタル技術とデータを前提に高速・高頻度・高成功率で顧客価値を創造できるヒトと組織をつくる」ことなのか、そしてそれをどう実現し、具体的にどのような顧客価値をどうつくるのか、について理解し説明できるようになる。

標準所要時間: エグゼクティブバージョン/2時間 レギュラーバージョン/4時間 フルバージョン/8時間

#### "7つのリテラシー" の修得を目指すDX人材育成 [顧客価値創造体験ワークショップ]

#### メニュー② 「DXの科学®」コア

対象者: 中堅社員、一般社員

到達目標: 顧客価値創造プロセスのコア部分である顧客問題および顧客 課題の2つの仮説の構築&検証を体験し、仮説構築&検証の意義・重要 性を理解する。

標準所要時間: 4時間

#### メニュー③ デジタル "アウトオブザボックス"

对象者: 中堅社員、一般社員、新入社員

到達目標: デジタル技術とデータを事業前提にした顧客価値創造、新規 事業創出を体験し、"アウトオブザボックス (箱から出て常識を捨てて)" 思考することの重要性を理解する。

標準所要時間: 4時間

#### メニュー④ DXワークアウト

对象者: 中堅社員、一般社員、新入社員

到達目標: 新規のデジタルサービスをローンチすることをテーマにサービスデザインを模擬体験することで、DX実践に必要な "7つのリテラシー" を理解、それらのツール活用を体験する。

標準所要時間: Fullプラン/16時間 Midプラン/8時間 Liteプラン/4時間



#### "デジタル時代のシン・顧客価値創造プロセス"構築 [ファシリテーション型コンサルティング]

#### メニュー⑤ DXレシピデザイン

対象者: 幹部社員、中堅社員

到達目標: 貴社がDXで目指す事業経営/会社経営を定め、それと現状とのギャップを分析、そのギャップを埋めるべくDXを推進するための"レシピ"(処方箋)を設計する。

標準所要時間:16時間

#### メニュー⑥ デジタルビジネスジェネレーション

対象者:中堅社員、一般社員

到達目標: 顧客価値の細分化・多様化、エコノミーの変化を踏まえ、顧客価値起点で 貴社の "DXによる新規事業 = デジタルビジネス" を創出する。

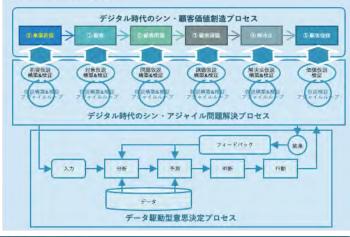
標準所要時間: 20時間

#### メニュー⑦ デジタルサービスデザイン

対象者: 中堅社員、一般社員

到達目標: 貴社の既存事業または新規事業を対象に、その構成要素である "デジタルサービス" を顧客価値起点で、かつ、アジャイルに設計・試作する。

標準所要時間: 16時間



#### メニュー(8) DXメンタリング

対象者: 経営層、幹部社員、中堅社員

到達目標: 上記メニュー⑤~⑦の案件ならびに貴社の各種DX関連案件について、貴社と弊社間の "創造的対話" を通して貴社自身で課題を達成できるようになる。

#### メニュー(9) DX戦略コンサルティング

対象者: 経営層、幹部社員、中堅社員

到達目標: 上記メニュー⑧に加えて、さらに経営戦略的観点から弊社がコンサルティングを行い、貴社自身でより高度かつ戦略的な課題を達成できるようになる。

#### 主催会社、問い合わせ先、および、「DXの科学®」と各メニューの紹介資料



主催会社

株式会社DXパートナーズ 〒810-0041 福岡市中央区大名2-6-1

Fukuoka Growth Next 問い合わせ先

team@dxpartners.co.jp



「DXの科学®」紹介資料



各メニュー紹介資料